

川崎市議会2013年
第1回定例会

このまちとともに

日本共産党の
代表質問より

防災、子育て、高齢者、
中学校給食…

阿部市長、最後の川崎市予算

市民の要望と隔たり

共産党がくらし・福祉優
先を主張

新年度の歳入は、一般・特別・企業会計合わせて1兆2961億円で、今年度より5.0%増です。個人市民税収入は12億円増になっていますが、廃止された年少扶養控除等による増税分は約35億円に上ります。川崎は人口増が続き増収ですが、一人当たりの所得は減少しています。共産党はそのことから、市民のくらし、福祉、防災等を優先させる予算を求めました。歳出では、防災対策は小中学校への独立備蓄倉庫や備蓄品の充実等が盛り込まれましたが、直下型地震が予測されるなか、家屋の倒壊等



予算審査特別委員会で質問しました

中部小児急病センターが日
医大小杉病院で4月開設

診療時間は準夜帯（受付午後6時半～午後11時）です。深夜帯までとしなかった理由と今後の深夜帯開設の方向性を質問。健康福祉局長は同病院でも小児科医師の確保に限りがあり、比較的患者が多い準夜帯に限定した。開設後の状況も見ながら限られた医療資源を効果的に配置し、今後も小児科救急医療の充実に努めると答弁。

緊急一時保育の速やかな対応と拡充を

現在43カ所の認可保育所で、保護者の週3日以内の就労や病気時、疲労回復などに対応する一時保育を実施。母親が病気の際の申込み、利用したい2週間前までと言われた事例をあげ、速やかなサポートへの改善と増設について質問。こども本部長は「利用状況は施設ごとに異なるので、利用者の視点に立った情報提供

を防ぐ耐震補強には消極的です。大規模事業には「大盤振る舞い」

子育て支援や高齢者では、認可保育園への不承諾数は2600人にのぼり緊急増設が必要です。小児医療費助成の拡充、要望の強い中学校給食には足を踏み出そうとしませんでした。特別養護老人ホームは依然として5600人が待機しています。一方で大規模事業・臨海部国際戦略拠点整備の土地購入に21億円余、船のこない港への3基目のガントリークレーンに8億円など大盤振る舞いです。市内経済を支える中小零細事業者への予算は、商店街関係費を入れても、融資を除けば約4億円で一般会計のわずか0.07%です。

を区役所と連携し努める。新年度は5カ所拡充する」と答弁。速やかな受入れができるよう区役所のコーディネートを含めた支援を求めました。児童虐待防止対策の充実に

専門職種の増員と体制の強化等を求めた共産党の代表質問に、こども本部長は「児童相談所に保健師を配置、区保健福祉センターに児童家庭課を設置し社会福祉職と心理職を配置する」と答弁。産後ケアを行っている助産院を支援するなどの産後ケアの充実、養護施設、児童家庭支援センターの整備とショートステイの実施を求めた石田議員に、「助産院と連携し出産後の母親への支援の充実を図る。医療・心理のより専門性の高い（仮称）こどもケアセンターの整備のほか南部、北部に児童養護施設を整備し、2カ所に保護者の疾病等に児童を養育するショートステイ機能をもたせ、養護施設内に児童家庭支援センターを新たに設置する」と答弁。

新たな公立保育所基本方針について

市は公立保育所（現58ヶ所）について、「子育ての孤立感、負担感等を持つ保護者の増大から地域の子育

新年度防災予算の概要

- ▼同報系防災行政無線をデジタル化し、屋外受信機（市内計258カ所）のスピーカー出力向上による音声到達範囲の拡大等はかる
- ▼独立型備蓄倉庫を市立中学校と合わせ小学校にも2015年度まで目標に整備を推進。13年度は中学校5カ所、小学校22カ所に整備。
- ▼避難所175カ所にLED投光器を設置。マンホールトイレを中学校15校に、13年度は基礎調査、次年度に設計・工事の予定
- ▼木造住宅の耐震改修助成は対象となる旧耐震基準（1981年以前建築）が市内に約2万戸あるのに予算件数は今年度100件から新年度175件へ、倒壊や火災を防ぐために増額が必要です。
- ▼消防職員数は国基準の1520人に対して現員数1385人で135人不足ですが新年度の増員はなし。
- ▼消防水利の未充足地域（メッシュ）は60地域ありますが、耐震性防火水槽の増設は5カ所です。

て支援の強化等公立保育所の役割が大きくなっている。全園で園庭やプール等の地域開放や、豊富なスキルをもつ保育士、栄養士、看護師が配置されている。「11年度の園庭開放の利用は年5万2千人余、育児相談は2385回実施するなど地域に浸透している」とその実績を大きく評価しながら各区3カ所を新たな機能（地域のこども子育て支援、民間保育園への支援、人材育成）をもつ公立保育所として残し、あとは民営化を進める基本方針を発表したが論理が矛盾していると指摘。石田議員は公立保育園が乳幼児の親子が気軽に行ける身近な場所にあつてこそ地域の子育て支援の役割を果たせるのだから民営化せず（ウラ面へつづく）



自席から質問する
石田和子議員

存続させるべきと強調。2013年度、2区でモデル実施し、14年度から全区で実施する方針ですが新たな公立保育所は民間保育所の人材育成を行うとしているのに、民間保育所への説明と協議さえ不十分な実態も明らかになり、進め方を含め厳しく批判しました。

子母口小学校の仮校舎への通学安全対策を

遠くて高低差が30m以上ある通学路の安全対策を求めてきましたが、市教委は、児童の体力を考慮し、子母口富士見とバス停（岩川、千年、子母口）の隣接地域に住む児童にバス定期乗車券を発行することに。また80段ある階段を新たに通学



80段の階段が新たに通学路として指定

路として指定。石田議員は新1年生や低学年の児童が乗車する際の安全確保や路線を間違えないように、地域交通安全員の配置、曲がっている急階段の防犯等の対策を質問。教育長は人員確保を含め必要に応じ地域交通安全員を配置する。また階段中程にも配置を検討していると答弁。長期休み中の「わくわく」と児童の児童へのバス乗車の対応も要望しました。

◇「市民アンケート」の要望に対する区役所の回答

昨年8月実施の共産党市議団のアンケートに寄せられた交差点や踏切、通学路等の改善要望について、宗田裕之、石田事務所長や住民と一緒に現地を確認し地図に写真と要望を添えて昨年10月に高津区道路公園センター、危機管理室に提出、12月25日に中間回答がありましたので一部報告します。



高津区役所より中間回答を受ける

●JR南武線、大山街道踏切の「立体交差化」

「JR南武線大山街道踏切の歩行者、自転車、車の安全対策を」―《回答》「栄橋交差点から片町交差点までの間の現道を拡幅し、JR南武線をアンダーパスする計画の道路である」―「車を南武線の下を通し踏切による車の渋滞をなくし歩行者の安全を図る」―「平成26年度に着手する路線と位置づけしており、さらに事業着手時期の前倒しを行い、25年度に着手する路線として位置づけ、JR東日本と踏切除去にむけて協議を行っている」

●国道246号と府中県道が交差する溝口交差点の安全対策を

「溝口交差点は交通量も多く横断歩道も長く過去に何度も事故が起っている。安全

対策を」―この問題は昨年の事故後、地元住民の皆さんが「安心して通れる交差点に改善を」と運動されています。私達も住民と一緒に、宗田裕之、石田事務所長



が高津警察署へ、高津区役所には石田議員も同行し要望を行いました。高津警察署では「危ない交差点」に位置づけしており、横断歩道の改修を行う。区役所は「注意喚起の電柱幕をすぐに設置する」との回答でした。横断歩道がまっすぐに補修され、電柱幕が貼られました。

●久末寺谷住宅にある宮の谷公園内のフェンスの改修を

宮の谷公園内の「フェンスが7カ所ほど破損している。こともが怪我をしないよう丈夫なフェンスの設置を」の要望に、新しいフェンスが設置されました。



●バス停「富士通ゼネラル西門」付近の電柱の支線が危険

「電柱の傾きを抑える支線が歩道を横切っており危険、安全な設置にしなおしてほしい」の要望に「東京電力に改善の要請を行った」と回答。すぐに支線の張り直しが行われました（写真）。



●かつら公園の階段に手すりの設置と砂場の補充を

要望に対し「今年度中に砂の補充及び階段部分に手すりを設置する」の回答。手すりは設置され砂場の砂も3月中には補充される予定。公園の街灯も新しくなりました。（下写真）



●二丁目と六丁目の境の道路の安全対策を

「通学路だが狭い道を車がスピードを出すので怖い。安全対策を」の要望に対し「路面表示等による安全対策を検討する」「電柱幕を貼り、交通安全啓発を図る」と回答。

●教育委員会の通学路安全対策として、歩車共存道路として、路側帯にカラー舗装を新年度中に行うこととなりました。

●カーブミラーの設置等の要望は「新年度に検討、順次整備」

●新作3-16-2のカーブミラーが撤去されたまま。通学路があるため適切な位置への設置を―《回答》「次年度に検討する」
●新作6-1-17の前は5差路になっている。近隣にスーパードも車も多い、通学路になっているので安全対策を―《回答》「カーブミラーの設置又は交差点内のカラー舗装は次年度に順次整備する」

●横断歩道や信号などの交通安全対策の要望は「高津警察署に要請した。電柱幕で注意喚起する」の回答でした。今後

も注視していきます。